

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：明日葉保育園 第三戸塚園	種別：認可保育所
代表者氏名：小川 雅美	定員（利用人数）：60名（利用者：59名）
所在地：〒244-0817 横浜市戸塚区吉田町3003-2	
TEL：045-871-5557	ホームページ： <a href="https://www.ashitaba.jp/hoiku/daisantotsuka/">https://www.ashitaba.jp/hoiku/daisantotsuka/</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2015年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社あしたばマインド	
職員数	常勤職員： 12名 非常勤職員 12名
専門職員	園長 1名 主任 1名
	保育士 16名 栄養士 3名
	看護師 1名 調理師 1名
	事務員 1名
施設・設備の概要	保育室 6室 トイレ 4ヶ所
	調理室 1ヶ所 事務室 1室
	園庭 有

③ 理念・基本方針

◆保育理念

「子どもの明日を育み。今日を支える」

明日葉の花言葉は、「旺盛な活動力」

私たちは、子どもが毎日を豊かにすごせる保育を通じて、明日をたくましく生きる力を育みたいと考えます。

そして、子どものすこやかな成長を願うご家庭や地域社会とのコミュニケーションを大切にして、よりよい今日をサポートします。

◆保育方針

子どもが今日を最もよく生き、望ましい「明日」を創り出す力の基礎を培う

◆保育目標

- ・自分も人も尊重できる子ども
- ・自分で考えて正しいことを選びとれる子ども
- ・心も体もすこやかな子ども
- ・思いを適切に表現できる子ども

④ 施設・事業所の特徴的な取組

- ・保育プログラムとしては「食育」「リトミック」「体操」「異文化体験」の取り組みを行っています。
- ・食育プログラム「PKUTTO」では、園庭で作物を栽培し、収穫した野菜を使って

クッキングを行っています。旬の食材を使用した給食の提供や野菜をキャラクター化した「みらいエナジー」で、野菜を身近に感じてもらい食への興味へと繋げています。

- ・リトミック「flower」では、リズム遊びを楽しみながら感性、創造力、表現力を養います。

- ・体操「DEKITA」では、専門の講師指導の下、基本的な体の使い方に着目し「できた。」という達成感を大切にしながら、「心も体もすこやかな子ども」の基礎を育みます。

- ・異文化体験プログラム「あしたばドア」では、世界の国とオンラインでつなぎ、世界の様々な人たちとの交流を通じて、「自分も人も尊重できる子ども」の基礎を育みます。

- ・1,2歳児や3～5歳児は、主活動も含めて外遊び、午睡、給食の時間等一緒に過ごす事が多く、その中でクラスだけでは得られない思いや助け合う心を育てています。

- ・日々の遊びの展開は、子どもの興味や発想から広げ、子どもの主体性を大切にしています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年7月5日（契約日） ～ 令和5年4月6日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2017年度）

#### ⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)一人ひとりの子どもを受容する保育を行っています

法人の理念として「子どもの明日を育み、今日を支える」を掲げており、職員は理解し、子どもの気持ちや欲求を受け止めています。職員は子どもの個々の状態に応じて共感し、受容的、応答的に関わっています。そのため、職員の気持ちや時間に余裕を持ち、担任だけが対応するのではなく、声を掛け合いながら、他の職員も適宜サポートする体制をとっています。送迎時に保護者と話をする時も子どもの成長と一緒に喜んだり、保護者の思いに共感するなど信頼関係を築けるような関わり方を意識し、担任以外の職員とも話しやすい雰囲気作りを心がけています。

2)子どもと地域とのつながりを大切にしています

園では地域とのつながりを大切に考えています。コロナ禍以前は高齢者施設訪問、小学校交流（今年度は小学生が送ってくれた学校生活のDVDを観賞する予定）など行っていました。現在は控えています。それでも、他園との5歳児交流会、子どもの描いた似顔絵作品を区役所に展示、お世話になっている消防署や交番に勤労感謝のプレゼントを渡しに行くなど、できる範囲での交流を継続しています。今年度、5歳児は横浜市営地下鉄に乗り、舞岡駅近くにある畑で里芋掘り体験をしており、子どもたちが地域の人に接する機会や社会体験の機会が多くあります。

3)地域向け子育て支援事業を積極的に実施しています

園長は地域の施設長会議や地域支援の会議に参加するほか、民生委員や自治会の参加がある年2回の運営委員会での活発な意見交換の中で、地域の福祉ニーズや生活課題の把握に努めています。コロナ禍が続いていますが、地域の子育て世代向けに「子育て講座のご案内」として年間計画を立て、育児講座では年3回の離乳食の進め方、交流保育では手遊び、水遊び、絵本の読み聞かせ、嘔吐処理手順、栄養相談など、園の専門性を生かした取組を積極的に実施しています。

4) 苦情解決の体制の周知方法に工夫が期待されます

苦情対応マニュアルに基づき、苦情受付担当者、苦情解決責任者、第三者委員が設置されており、園の苦情解決の体制は整備されています。入園時、保護者に重要事項説明書で説明をしていますが、保護者アンケートでの認知度が30.4%のため、十分に伝わっていない面があると思われます。苦情解決の体制について保護者に理解してもらうため、周知方法の工夫が期待されます。

5) 子どもが心地よく過ごせる保育室環境の配慮が望まれます

園ではスペースの問題などから、子どもの状況に応じて一人で過ごしたり、落ち着いてくつろげる空間の確保が難しい状況です。園も子どもが集団から離れて過ごせる環境についてさらに工夫が必要と考えています。今後の取組が期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度は時間をかけて丁寧な調査、評価及び今後のさらなる改善に向けての具体的なアドバイスをいただき、ありがとうございました。

保護者様にも、お忙しい中アンケートのご協力をいただきましたこと感謝申し上げます。

平成29年度を受審後、その経験を引継ぎながら保育を進めてきましたが、今回の受審を通して改めて明日葉保育園第三戸塚園の保育を考える良い機会となりました。

話し合いを繰り返す中で、課題や目標を共通理解し、保育に反映できたと感じています。

地域との連携について、より深い関係性を築きながら、子ども達の経験の幅を広げたり、知識や興味関心の幅を広げる事ができるような関わりを進めていきたいと考えます。

これからも、子ども達の自主性や主体性を大切に、子ども達にとっての一番を考えてまいります。

最後に第三者評価を受審するにあたり、関わっていただいた皆様に心より感謝申し上げます。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり